

## 第3学年3組 社会科授業案

第6時限 3年3組教室

1 単元名 「これからの東陵校区をかんがえよう」

2 単元目標

- (1) 校区自治会長の乗小路トンネル開通に対する思いを知り、より暮らしやすい校区にするために、地域住民の一人として意欲的に追究しようとする。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 乗小路トンネル開通をきっかけにさらによりまちづくりを目ざす校区自治会の取り組みと行政の取り組みを関連させながら今後のまちづくりについて考え、適切に表現することができる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 乗小路トンネル開通に対する、資料やアンケート調査、聞き取り調査などを通して、情報を分析し、わかったことをまとめ、説明することができる。  
(資料活用能力)
- (4) 地域住民の生活維持・向上のためには、行政の仕組みとともに自分たちも含めた地域住民の果たす役割があることについて理解することができる。  
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元設定の理由

本学級には知的好奇心が旺盛で、知的探求心が強い生徒が多い。社会科の授業で行っている「新聞記事やニュースについてまとめよう」で時事問題について詳細にまとめたり、大きなニュースがあれば教師に話しに來たりする姿が見られ、社会的事象への関心の高さを感じる。こうした姿勢を認めつつ、さらに社会的事象に自ら関わっていかうとする態度を身につけさせれば、社会参画意識が育っていくのではないかと考えている。そこで、「自分と社会とのかかわり」、「さまざまな立場の人々の思いや願い」を意識して社会を見つめる学習の場を設定することとした。誰もが住みよいまちづくりという視点から地域を見つめ直したり、その実現に向けて身近にある問題を地域の人々や仲間とかかわりながら解決していかうとしたりすることを通して、地域に愛着をもち、行動できる生徒を育てていきたいと考えている。

社会参画への意識を育てるために、本単元では校区に開通予定の「乗小路トンネル」事業を軸に学習を進めていく。乗小路トンネルは、豊橋市の渋滞緩和や物流の円滑化を目的に整備されたトンネルである。その開通によって、地域の交通導線を変化させる可能性をもっており、地域住民にとって有用な事業でもある。このトンネルが開通するまでの行政の取り組みを調べていくことで、地方行政の目的や地方財政の仕組み、地域住民と議会や首長との関係など地方政治の基本的事項を学ぶことが可能になる。地方政治を自分たちがくらす地域の出来事と結び付けて考えることで、地域住民の一人として主体的に社会と向き合っていく姿勢を育むことができるであろう。

さらに、このトンネル事業には地域の代表として元市議会議員の原基修氏が大きくかかわっていることも教材として大きな意味をもつと考える。原氏は長年、豊橋市議や市議会議長を務め、議会を通じた地方政治のシステムに精通した人物である。原氏の実体験を通じて地方の政治の仕組みを学ぶことで、生徒は地方政治の意義や目的をより深く理解することが可能となる。また、地域住民の生活を考えながら議員活動に取り組んできた原氏の苦労や努力に共感したり、解決できない疑問をぶつけたりする機会をもつことで、「地域のために」という地方政治の本質に触れることができると考えている。トンネルの役割やその開通に尽力してきた人物の思いに触れながら学習を進めることで、深く校区のことを考えることができ、社会参画の必要性をとらえさせることができるであろう。

指導にあたっては、単元の前半で地方自治についての基礎的な知識や仕組みについて、乗小路トンネルを例に学習していく。トンネル事業を行政の働きや財政と関連付けて考えさせることで、地方自治を身近に感じさせていきたい。さらに、実際に地方自治にかかわった人から話を聞く場を設定する。元市議会議員であり、現在は自治会長を務めている原氏が乗小路トンネルの開通に尽力してきたことを知り、その具体的な活動を知ることによってトンネルの役割やそれによって自分たちの生活がどう変化するかについて関心を深める姿を期待する。その後、東三河建設事務所の方を招いて実際に乗小路トンネルの見学を行い、トンネル開通までの経緯やトンネルの必要性について追究していくきっかけとする。調べを進めていく過程で、トンネル建設の根幹である東三河環状線が豊橋市や東三河地域にとって重要度の高い道路であることを認識させていきたい。

さらに、行政の立場だけではなく、住民の視点からも検証をしていくために、「乗小路トンネルが開通することを東陵校区の住民はどのように思っているのか」という課題を設定し、保護者へのアンケート調査を行っていく。トンネル開通に熱意を持って取り組んだ原氏に対して、地域住民にはその価値が十分に浸透していない現実を見て、「原さんはどうしてトンネル開通にこだわったのか」という疑問をもたせたい。

さまざまな苦労を重ねながらも、地域の発展を考えて行動してきた原氏の思いにふれながら、地方自治の本質に気づかせ、「自分たちにもできることはないか」と考える流れをつくりだしていきたい。単元の終末では、

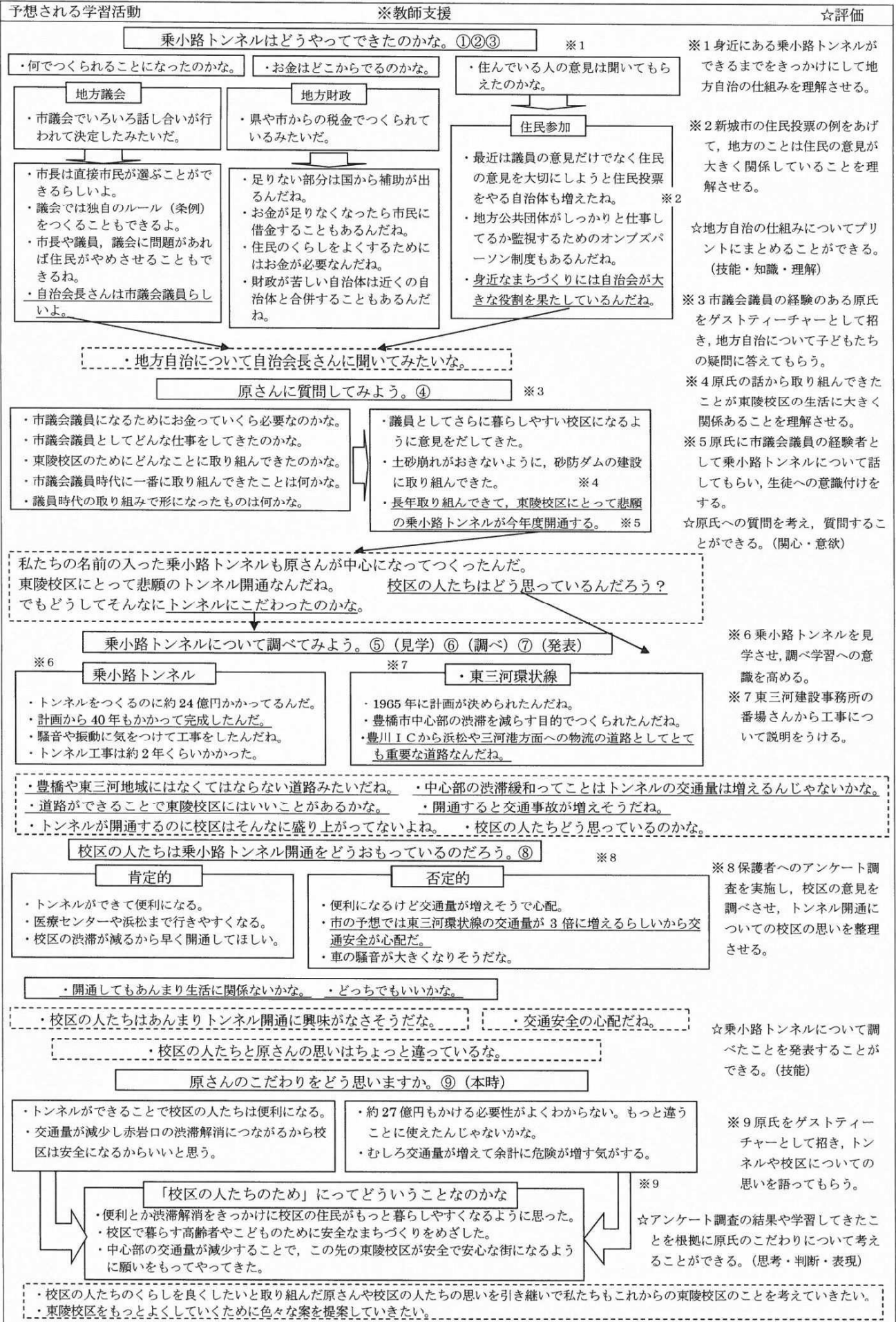
よりよい東陵校区にするための具体的施策を考え、自治会長の原氏へ提案したり、自分たちで計画を練り直したりする場面を設定し、「誰もがすみよい地域を地域住民みずからがつくりだす」という地方自治の原則を理解させ、その達成に向けて主体的に動き出そうとする意欲を高めていきたい。

#### 4. 抽出生徒について

学習意欲があり、与えられた課題については丁寧に取り組むことができる。一問一答形式のような問題については、毎回挙手をして答えようとする。反面、自ら疑問をもって、その解決に向けて考えることに対しては苦手意識をもっている。

地域住民としての意識という点では、「校区の行事に参加したい気持ちもあるが、自分が参加しなくても大丈夫だろう」と答えている。その理由として「時間がないし、校区の行事に対して関心が薄い。」と答えている。地方政治のあり方を学ぶ本実践や地域のために活動する原氏の姿から、地域に生きる自分を見つめ、社会に積極的にかかわろうとする意識を高めていきたい。

5 単元構想図 (題材) (時間完了 本時 9 / 10)



僕たちの東陵まちづくりプランを考え、提案しよう。⑩

乗小路トンネルに関して

交通安全

- ・騒音の心配があるので壁を作ってもらいたいな。
- ・交差点が危険だから、信号をつけてもらいたいね。
- ・歩行者用の信号もつけてもらおうよ。
- ・歩行者が安心して歩けるように歩道を作ってもらおう。

イベント

- ・開通記念式典のイベントを考えたいね。
- ・東陵校区らしいイベントにしたいね。
- ・多米校区とコラボできたらいいね。

トンネル以外のこと

- ・校区の人が安心して遊べるように公園に明るい電灯をつけてもらったのかな。
- ・交通量が多い道路にはガードレールとかつけてもらえるように要望を出してみよう。
- ・夜になると暗い道がたくさんあるので、防犯対策で電灯をつけてもらおう。

・校区の人たちにもっと愛される東陵校区になるといいな。

※10

※10 原氏の思いを受けてより校区住民のためのまちづくりについてアンケートを基に考えさせる。

☆東陵校区をよりよくするための施策をまとめ原氏へ提案する。  
(思考・判断・表現・技能)



6 本時の授業

(1) 目標

- ・乗小路トンネル開通にこめた自治会長さんの思いを知り、校区住民にとって生活しやすいまちづくりを考えることができる。 (思考・判断・表現)

(2) 展開 **中心課題** **課題** ○学習活動 ◎言語活動 ・予想される子どもの考え ※支援 **評価**

3

◎トンネル開通にこだわってきた原氏の思いを考える。

※自分の意見を発表する時に根拠となる資料や地図を使うように指示する。

原氏のこだわりをどう思いますか？

- ・トンネルが開通すると**校区の人たち**は便利になっていろいろな所へ行けるからいいと思う。
- ・交通量が増えて、**東陵校区**が賑わい、お店なんかもふえるかもしれないとアンケートに書いてあったのでいいと思う。
- ・校区の端に大きな道路ができることで赤岩口付近の交通量が減るので渋滞解消につながり**校区の人たち**が安全にくらせる。



- ・僕は、トンネルに27億円もかかっているのにびっくりした。その額をもっと違うことに使ったほうが**校区の人**は喜ぶと思う。
- ・住民の意見の中で**校区**の交通量が増えて事故の心配があるし、トンネルはそんなに必要ないかもしれない。
- ・西小鷹野に住んでいるし、トンネルを使わないから**校区の一部の人**にはどうかと思う。

15

「校区の人たち」のためにとってどういうことなのか

※原氏のこだわりが校区のために取り組んだことに気づけるようにキーワードをわかりやすく板書する。

- ・便利とか渋滞解消だけでなく、東陵校区がもっと暮らしやすくなるようにと思ってやってきた。
- ・確かにお金はかかったけど、校区で暮らす高齢者や子どものために安全なまちづくりを目指した
- ・中心部の交通量が減少することで、この先の東陵校区が安全で安心な街になるような願いをもってやってきた。
- ・校区の人たちが便利になることも大切だけど、市議会議員として豊橋全体の発展も願った。

※話し合いが行き詰まったら、校区の人たちという視点でもう一度考えさせる。

〈思考・判断・表現〉(ワークシート・発言から)

B：自分なりに原氏の思いを考え、発表することができたか。

A：個人の利益でなく、校区住民の利益のために取り組む原氏の思いを考え、発表することができたか。

Cについては、校区の人の思いと関連付けて考えるように支援する。

○ 生徒たちの話し合いを聞いた原氏からまちづくりや地方自治に対する思いを聞く。

37

原さんの思いを聞いてみよう

- ・自分一人の力じゃなくて、校区住民の要望や支えてくれた人たちの思いや願いを形にできる。
- ・東陵校区がさらに、暮らしやすい校区になってほしいし、この先の東陵校区を作っていくのは君たちだと思う。東陵のこれからを君たちにたくします。

- ・原さんがこだわってきたのは、今の暮らしをよくするだけでなく、これからの東陵校区のことも考えてこだわって取り組んできたんだね。もっといい東陵校区にするためにどんなことが必要かな。

42

振り返りを書く

- ・東陵校区をよりよくしていくために私たちがいろいろ考えていきたい。
- ・原さんは校区全体のことを考えて取り組んでくれていた。私たちもこの先の校区のことを真剣に考えていきたい。
- ・東陵校区を良くしていくための案をいろいろ提案していきたい。

※話し合いや原氏の思いから「将来」「住民として」という言葉を意識させて文章を書かせる。